

5-1 東海地方の微小地震の分布（1983年5月1日～1983年10月31日）

Distribution of Microearthquakes in Tokai District (May 1, 1983 - October 31, 1983)

名古屋大学 理学部

School of Science, Nagoya University

前報1) に引き続いて1983年5月1日より1983年10月31日までの6ヶ月間に於ける東海地方の微小地震活動について報告する。

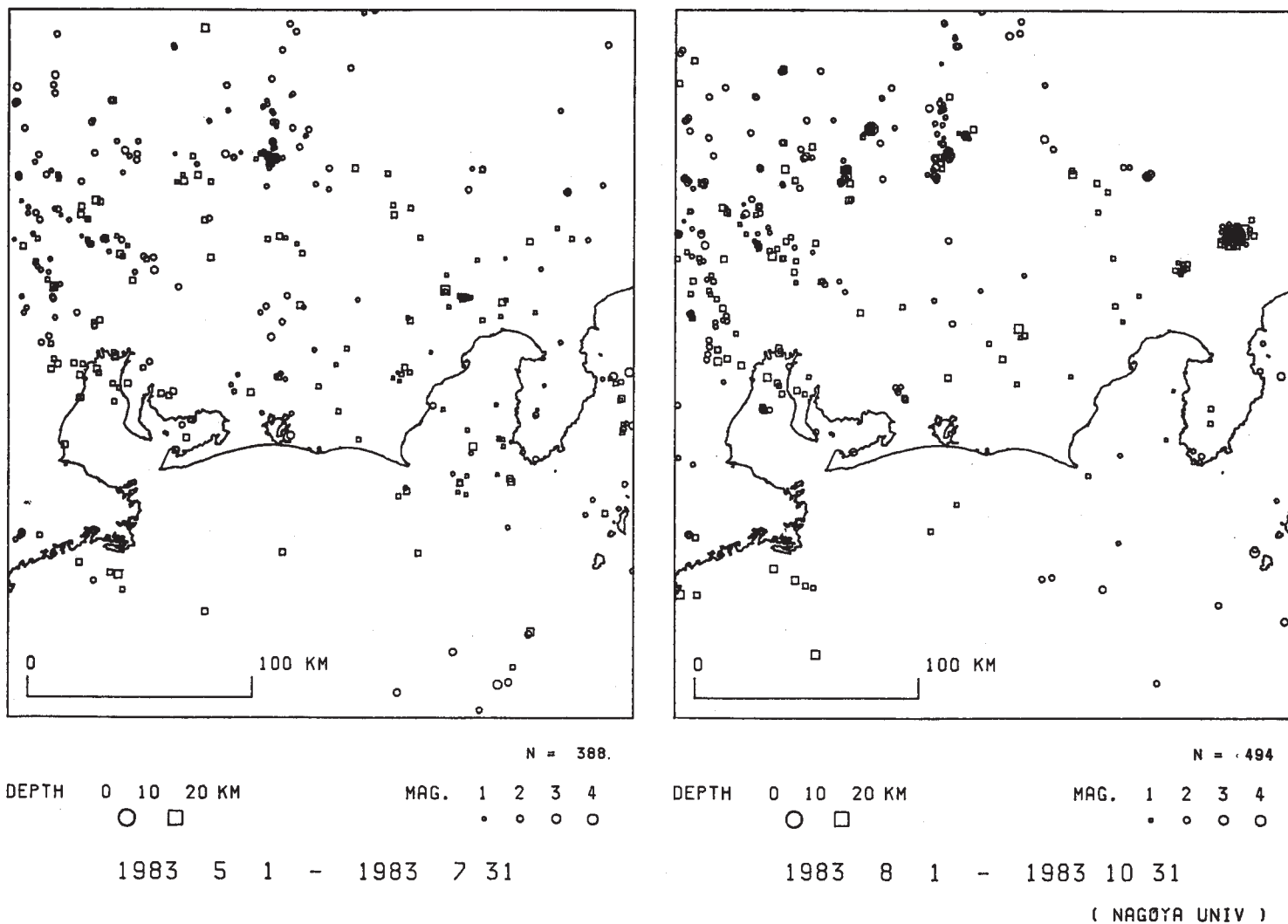
第1図に1983年5月1日より1983年10月31日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20 km以浅に発生している地震の震央を3ヶ月ずつの期間に分けて示す。第2図は同じ期間に20 kmから80 kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 王滝村付近に発生する地震については5月にやや活動的であったが6月より8月までは活動が低く、特に8月は非常に不活発であった。9月になってからはかなり活動的になっている。
- (2) 岐阜県西部の微小地震の活発な地域では8月から9月にかけて微小地震がやや活動的であった。
- (3) 8月8日に山梨県東部でM5.8の地震があり、多くの余震が観測された。
- (4) 駿河湾では5月より8月の3ヶ月間は後半期より活動的で南北方向の震央分布が見られるが、これは約30 kmのやや深い地震が活動的であったため後半は浅い地震の活動が多くなっている。
- (5) 9月16日より富士山直下にいくつかの微小地震の発生がみられた。第3図にその震央分布日別発生頻度、波形の特徴を示す。どの地震も同じ様な規模の地震に比較して高周波成分が極めて少ないことが特徴的であるが、初期の地震は比較的到高周波成分が多かった。

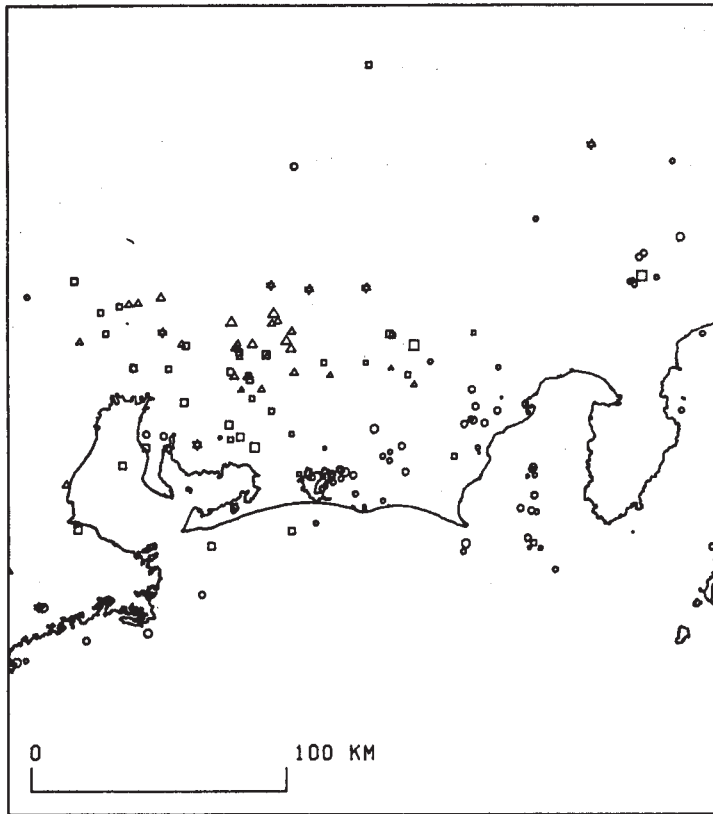
参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布（1982年11月1日～1983年4月30日），連絡会報，**30**（1983），178 - 181.



第1図 微小地震の分布（1983年5月1日～1983年10月31日）震源の深さが20 km以後のもの

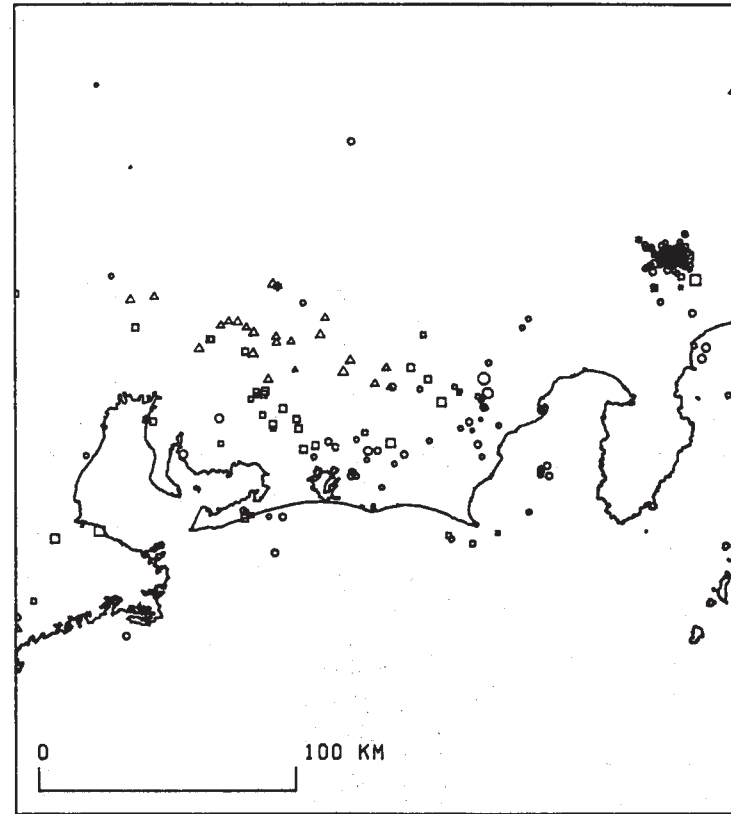
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1983 - October 31, 1983) whose depth are shallower than 20km.



N = 151

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1983 5 1 - 1983 7 31



N = 266

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

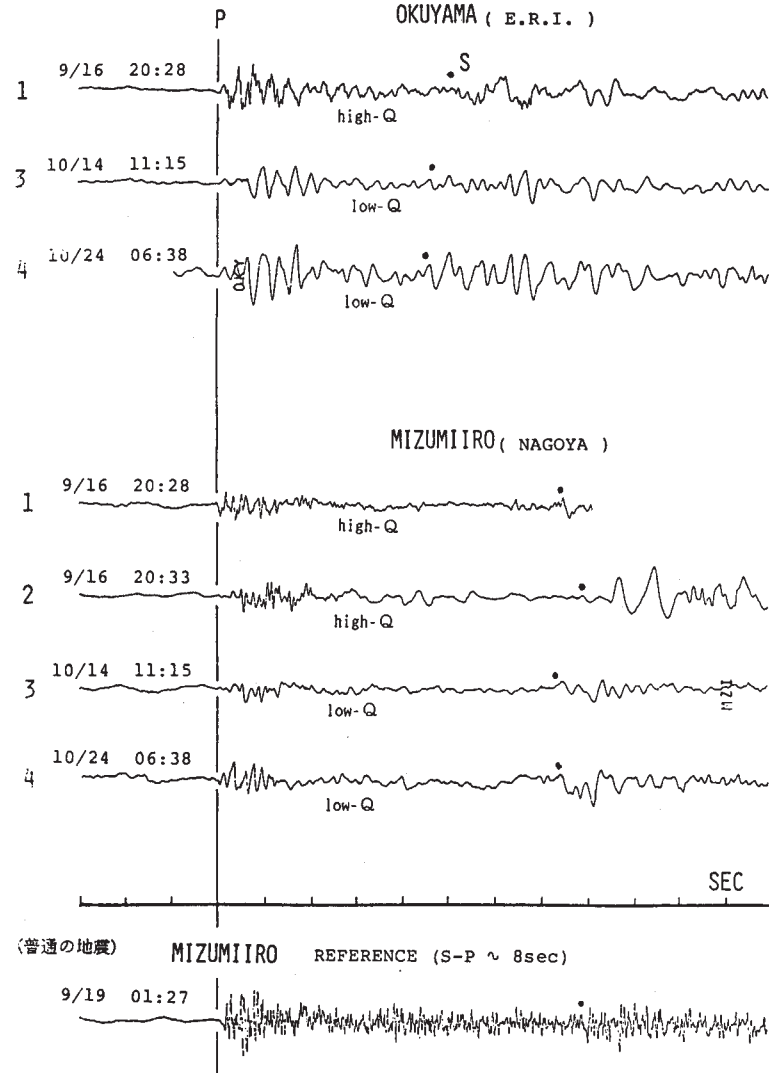
1983 8 1 - 1983 10 31

(NAGOYA UNIV)

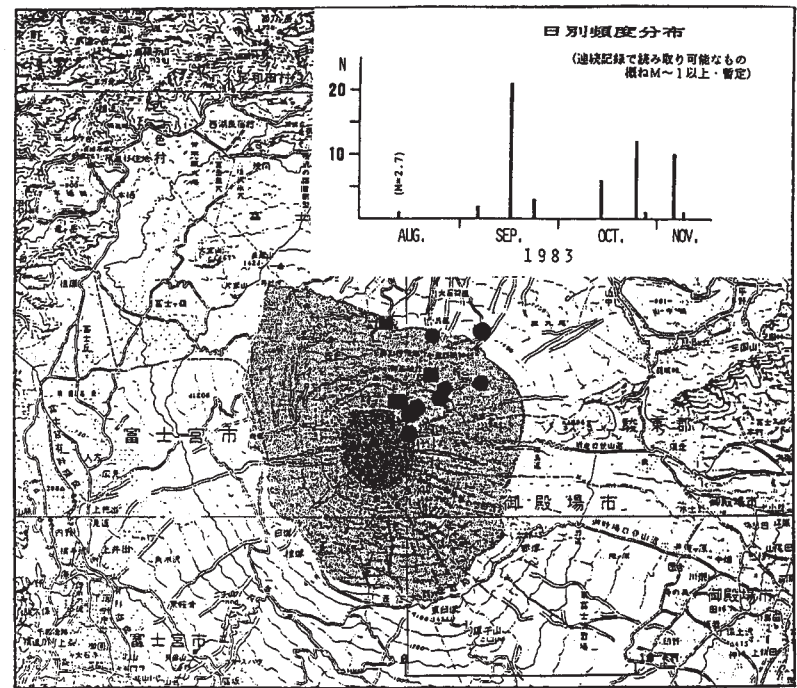
第2図 微小地震の分布 (1983年5月1日~1983年10月31日) 震源の深さが20 kmより深いもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1983 -October 31, 1983) whose depth are deeper than 20km.

周波数の比較



83 9 16 - 83 10 24



第3図 富士山直下に発生した微小地震の分布、日別発生頻度、波形の特徴

Fig. 3 Epicenter distribution of earthquakes and daily frequency under Mt. Fuji. Examples of seismogram are shown in the left figure.